

# P1-6

## 大阪府における胆嚢がん・肝外胆管がん

大阪国際がんセンター がん対策センター

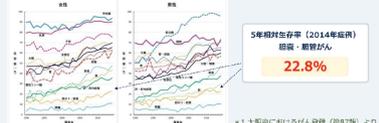
原 加奈子、中田 佳世、石田 理恵、花原 聡、久馬 麻希、兼原 佳宏、森島 敬隆、宮代 勲

### 背景

【がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針】

令和4年8月1日付で改定された指針において、我が国に多いがんとして、5大がん(胃・大腸・乳癌・肺・肝)に**胆嚢・胆管**が加わった。大阪府におけるがん登録(第87編)「5年相対生存率の年次推移」によると、生存率の最も低い部位は「膵臓」、次いで「胆嚢・胆管」と報告されている。

5年相対生存率の年次推移\*



### 方法

【分析に使用した資料】

- 大阪府がん登録情報 1975-2018年症例
- 国際疾病分類腫瘍学 第3,1版
- 2015年日本人モデル人口

【注】

① 総合進展度を 早期(400・410)・進展(420・430)・進展(440) / 不明(499) に分類。

【治療区分と受療医療機関】

- ① 治療経路(観血的治療・薬物治療・放射線治療・その他の治療)より治療の有無を分類し、治療割合を算出した。
- ② 初診・治療病院コードより受療医療機関を調べ、大阪府のがん診療連携拠点病院の指定腫瘍(2019年時点)に分類した。

病院コードの優先付けは 観血的治療病院>薬物治療病院>放射線治療病院>初診病院

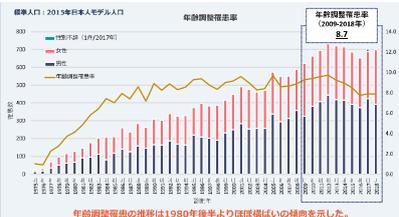
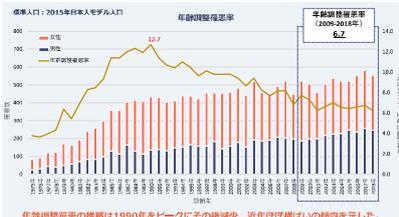
【大阪府がん診療拠点病院(2019年時点)】

- がん診療拠点病院
- 非拠点医療機関
- 他府県(医療機関不明を含む)

### 結果

#### C239 胆嚢がん

#### C240 肝外胆管がん



2009-2018年 診断例・男女割合

項目	N	男性	女性
診断例	5,255	2,246 (42.7%)	3,009 (57.3%)
DCO有病者	4,704	—	—

大阪府で2009-2018年に診断された胆嚢がんは5,255例、男女割合は43%・57%と女性に多い。年齢別罹患率増加は60歳代から増加し、男性では70歳代、女性では80歳代以上に多い。

2009-2018年 診断例・男女割合

項目	N	男性	女性
診断例	5,073	3,076 (60.6%)	1,997 (39.4%)
DCO有病者	5,001	—	—

大阪府で2009-2018年に診断された肝外胆管がんは5,073例、男女割合は61%・39%と男性に多い。年齢別罹患率増加は60歳代から増加し、男性では70歳代、女性では80歳代以上に多い。



治療の内訳

治療	観血的治療を含む (n=2,278)	観血的治療を含まない (n=666)
全例	1,612	307
早期	159	3
進展	1,453	304

治療の内訳

治療	観血的治療を含む (n=3,254)	観血的治療を含まない (n=843)
全例	2,081	1,173
早期	204	2
進展	1,877	1,171

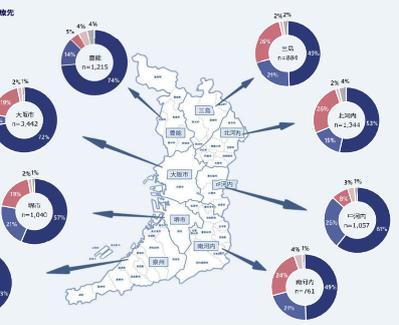
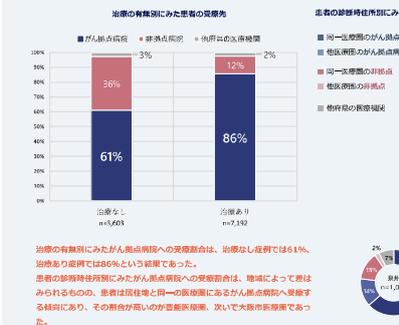


観血的治療施行症例における観血的治療の有無 (DCO有病者)

観血的治療の有無	観血的治療を含む	観血的治療を含まない
全例	1,550 (68%)	660 (29%)
早期	4%	2%
進展	75%	5%

観血的治療施行症例における観血的治療の有無 (DCO有病者)

観血的治療の有無	観血的治療を含む	観血的治療を含まない
全例	2,768 (86%)	1,000 (30%)
早期	0%	0%
進展	86%	30%



### 結語

大阪府における胆嚢がん、肝外胆管がんの年齢別罹患率は近年ほぼ横ばいであった。どちらも早期が14%と少なく、早期発見の難しさが示された。治療症例のうち観血的治療を施行されたケースは7割を超えたが、肝外胆管がんにおいては早期であっても遠隔転移となる割合が高く、観血的切除の難しさが示唆された。患者は府内の、特に自身が居住する医療圏のがん拠点病院へ受療する傾向にあった。

日本がん登録協議会 第33回学術集会 COI開示 筆頭演者名: 原 加奈子 当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。